

文化財として保存した庁舎の活用とFMサイクルの浸透 ～鬼北町庁舎再生への取組み～



1958年に竣工した愛媛県鬼北町庁舎は、築50年以上を経過し、耐震補強や多様化する行政需要に順応したやさしい空間を形成するため、庁舎整備が必要不可欠な状況でした。

新築か、改修か・・・町長選挙の争点の一つにまで広がった問題は、保存改修の道を選び始めることとなります。

既存施設の効率的な活用はFMの一つですが、庁舎の整備に伴って、町民のFM意識の向上と、職員のFMに伴う意識改革が図れたことが庁舎改修事業における最大の効果となりました。

後に、造形の規範となっているものとして国の登録有形文化財となった鬼北町庁舎は、有形レガシー（遺産）です。今、働き方を見直そうとしている職員は、行政サービスのプロとして、無形のレガシーを創造しようと日々努力しています。

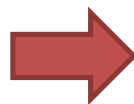
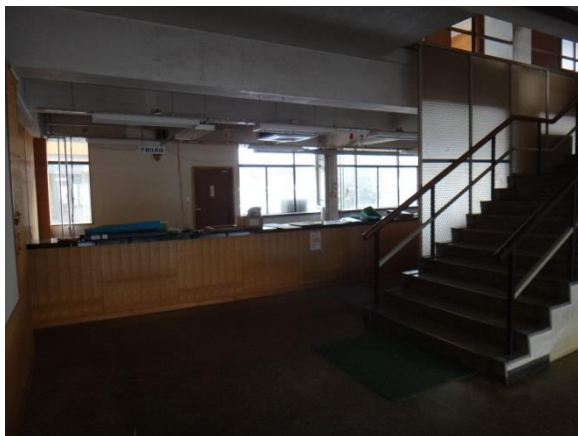
主なFMの実施内容

- I 古いものを価値あるものへ（文化財という価値を付加）
- II 保存活用が町民の誇りへ（小学生や町民へ価値を伝え残す）
- III 庁舎改修から始まった職員のFM意識浸透（業務における合理化）
- IV 町おこしの起爆剤へ（建築ツアー構想）

I 古いものを価値あるものへ(文化財という価値を付加)

取組み

狙い・効果



古いものを価値のあるものとして捉え、保存改修した取組みは、建築学会をはじめ近代建築史の大学教授などにも高く評価されました。新築と比べ大幅なコストダウンと、後世に負債を残さない庁舎の整備が実現しました。

II 保存活用が町民の誇りへ(小学生や町民へ価値を伝え残す)

取組み

狙い・効果



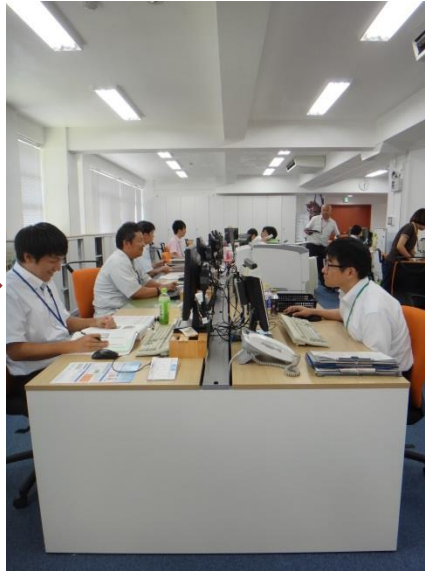
保存したことで町の文化遺産となった庁舎の価値を、子供たちや町民に伝え、故郷を誇りに思う郷土愛を深めました。

同時に最小コストで最適な状態保有が出来た取り組みを紹介し、FM意識の高揚を図ることが出来ました。

Ⅲ 庁舎改修から始まった職員のFM意識浸透（業務における合理化）

取組み

狙い・効果



建物をより長く使えるよう書棚を減らし、約10tの書類を減らすことに成功しました。また、備品やフロアの面積を有効的に活用し、私物化意識を払拭するような様々な物理的仕掛け（限られた数の書棚、フリーアドレス可能なデスク、机の引き出しは撤去、シンクライアント）を用いて快適な執務環境を構築することが出来ました。これらは、個人が行えるより身近な一つのFMに通じる考え方であり、職員のFM意識の浸透に繋がっています。

Ⅳ 町おこしの起爆剤へ（建築ツアー構想）

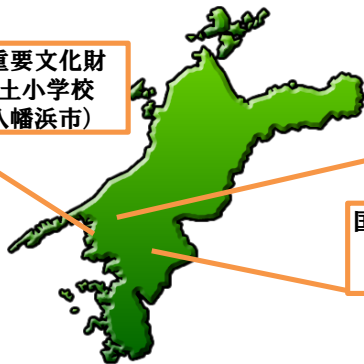
取組み

狙い・効果

国重要文化財
日土小学校
(八幡浜市)

ユネスコアジア
最優秀賞
少彦名神社
(大洲市)

国登録有形文化財
鬼北町庁舎
(鬼北町)



鬼王丸(道の駅)

全国の自治体で唯一「鬼」のつく町である鬼北町は、鬼の町づくりとして道の駅に鬼のモニュメントを設置し、集客効果を得ています。

また、県内には重要文化財等の建築物が他にもあることから、建築物と道の駅を巡るツアー等を企画しています。これが実現すれば、世界遺産となった国立西洋美術館と同じくモダニズム建築の一つである鬼北町庁舎の価値と保存に係るFMをより多くの人に伝え広めることが可能です。